

IV－39

住民意識（アンケート）による消流雪用水導入事業の評価

国土交通省 東北地方整備局 新庄工事事務所 法人会員 荒澤 慎一

1. はじめに

消流雪用水導入事業とは、水量の豊富な河川から市街地を流れる中小河川等に消流雪用水を供給するための導水路等の整備を行うもので、流雪溝へ雪を投入できるようにして自治体及び住民の除雪作業等の負担軽減や緊急車両等の冬期道路交通確保等を図るものです。

今回の評価対象は、平成11年11月に完成した山形県真室川町の消流雪用水導入事業であり、事業完成前後のアンケート結果より評価したものである。

2. アンケート実施方法

事業完成後2シーズンを経過した平成13年3月に、事業の必要性や除雪作業の負担の変化等に関するアンケート（事業完成前の平成10年10月に実施したアンケートと同じ設問）で、対象区域内の住民を対象として実施した。

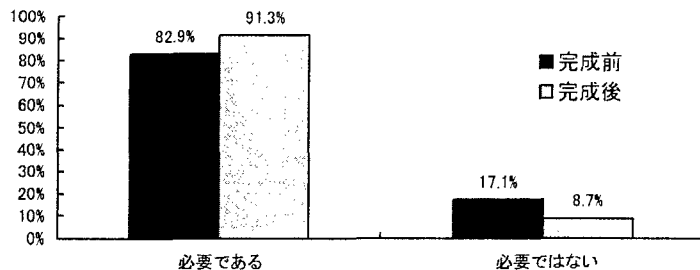
（H10年度：最大積雪深159cm・年間降雪深659cm H12年度：最大積雪深199cm・年間降雪深902cm）

アンケートの配布及び回収は、地域住民の協力により全戸配布した結果、調査の理解が得られ回収率は79.7%（537/807世帯）であった。【事業完成前88.7%（716/807世帯）】

3. アンケート結果

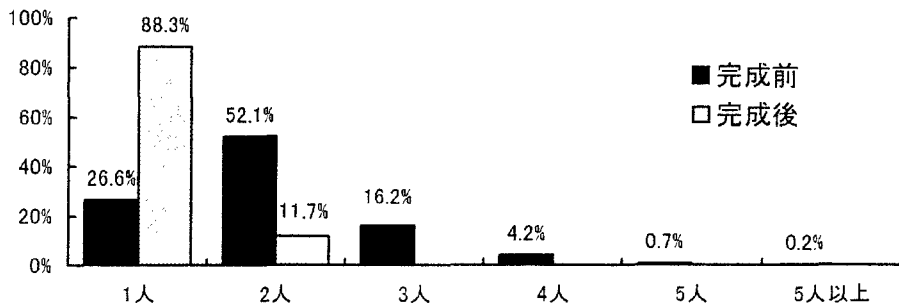
(1). 事業の必要性

必要であると答えた人が、完成前と比較して1割近く増加し9割を越え、実際に利用することでその効果を実感し、必要性が再認識された。



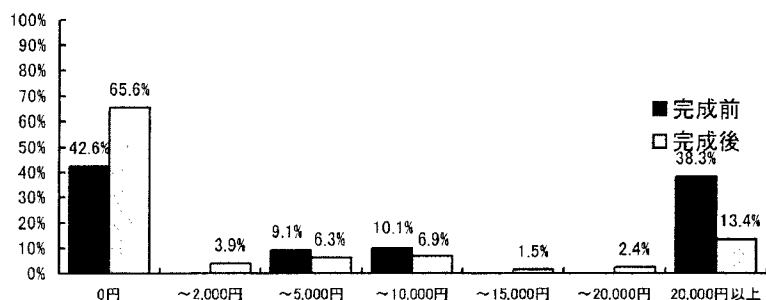
(2). 除雪時の作業人数

完成前は、1世帯当たり2～3人で行う世帯が約7割であったが、完成後は1人で行う世帯が約9割と除雪に対する労力軽減が図られた。



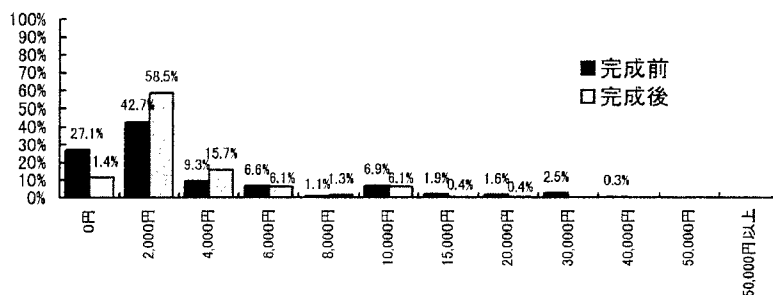
(3).世帯における除雪に対する投資額（除雪機械購入や除雪作業等の業者委託）

完成前では、20,000円以上／1シーズンの投資をした世帯が約4割であったのに対して、完成後では1割と減少している。また、投資がなかった世帯も4割であったのに対して6割以上となり、いずれも世帯の除雪に対する投資額は減少しており、事業効果が発現したといえる。



(4).CVM（仮想的市場評価法）のモニタリング

完成前後問わず、事業に対する支払い意志額は、いずれも2,000円／1ヶ月に集中しており、完成後におけるその割合は、6割に増えてきている。よって、期待どおりの事業効果があったといえる。



(5).地域の声（自由意見）

- 除雪が効率的にでき、自由時間が増えた。
- 除排雪がきれいにでき、安全な通学路や緊急避難路の確保ができた。
- 早朝からの除雪作業が少なくなり、安心して眠ることができるようになった。
- 隣人とのいさかいがなくなり、住民と行政のコミュニケーションが良くなった。
- 除雪作業が軽減でき、心筋梗塞の発作が少なくなった。 等が聞かれた。

4. アンケート評価

以上の結果からも明らかのように、真室川地区消流雪用水導入事業の完成により住民の除雪作業等の軽減が図られるとともに冬期の快適な生活に大きく寄与していると判断できます。

また、町では流雪溝が今以上効果の発揮できるような利用方法等を地区住民が組織する組合と一緒に検討しており、効果はさらに拡大することが期待できます。

5. 終わりに

豪雪地域に暮らす住民は、これからも雪との格闘は永遠と続きます。

克雪対策としての道路拡張や道路除雪等のもとより、行政と地域住民が協働して克雪のできる流雪溝整備やその用水を供給する消流雪用水導入事業への期待が高まっています。